

第6章 実践サイクルの確立

1 効果的で確実な進捗管理

第6章 実践サイクルの確立

1 効果的で確実な進捗管理

ビジョンの推進にあたっては、目標に向けた達成状況を、設定した指標をもって定量的、定期的に検証・評価し、取組内容の改善や計画の見直し等に反映させる進捗管理の仕組みが必要になります。

また、ビジョンの基本理念や基本方針として掲げる「適切な下水処理の徹底」と「持続可能な下水道事業」を図るためには、下水道の早期整備とストックマネジメント計画に基づく計画的な維持管理が重要です。

特に、持続可能な下水道事業を実現するにあたっては、投資及び経営の双方の視点をもって進捗管理を行わなければならないことから、本ビジョンをマスタープランとしたうえで、経営の基本計画となる「経営戦略」の検証・評価をあわせて行うことによって、確実な事業進捗管理を実施します。

これらの計画の実現に向けた具体取組の実施にあたっては、事業レベルでの実施計画（アクションプラン）を毎年策定し、このプランに基づく事業実施のための予算措置を行うことにより、目標達成に向けた着実な事業遂行を図っていきます。



ビジョン

- 下水道事業のマスタープラン
- 下水道の向かう将来像を定め、目的や課題を明らかにし、事業の今後の方向性を示す。
- 事業実施の基本となる施策体系と施策の概要、事業の進捗を管理する実践サイクル等を定める。

経営戦略

- 下水道ビジョンに基づき長期的な健全経営の持続を確保するための経営面の基本計画。
- 投資財政計画を策定し、事業実施における財政面の根拠とする。

実施計画

- 下水道ビジョンの施策の方針、経営戦略の財政計画に基づいたアクションプラン。
- 「ヒト・モノ・カネ」のPDCAサイクルにおけるツールとしての機能を備える。

第6章 実践サイクルの確立 ～ 1 効果的で確実な進捗管理～

実践サイクル（PDCAサイクル）については、以下のとおり実施します。

『Plan』：「ヒト・モノ・カネ」の基本方針を示した新ビジョンに基づき、投資・財源の基本戦略を示した経営戦略を踏まえ、具体取組としての実施計画を策定

『Do』：実施計画に基づき事業を実施

『Check』：局内部による事業の実績評価や経営にかかる評価を行った後、第三者委員会での審議・評価を経ることにより事業の透明性を確保

『Action』：毎年度計画の改善や見直しを図り、確実な進捗管理と事業の実効性を確保

進捗管理については、以下のとおり実施します。

・事業の成果や経営状況にかかる指標（KPI）、事業の活動にかかる指標（PI）の達成度については、各計画（ビジョン、経営戦略、実施計画）にて管理

◆年度毎の進捗管理

・・・指標の達成状況の検証・評価、実施計画における改善策の実施・計画の見直し

◆各期（前期・後期）の進捗管理

・・・指標の達成状況の検証・評価、各計画における改善策の実施・計画の見直し



